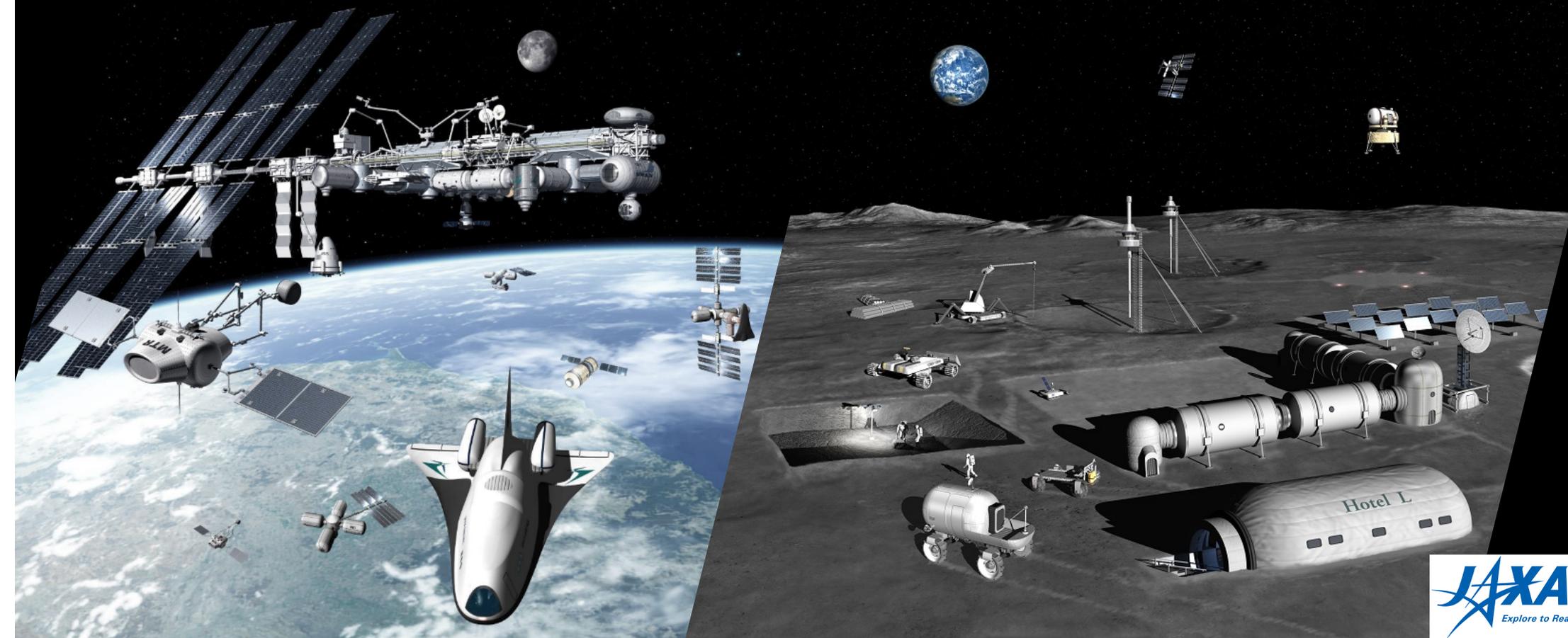


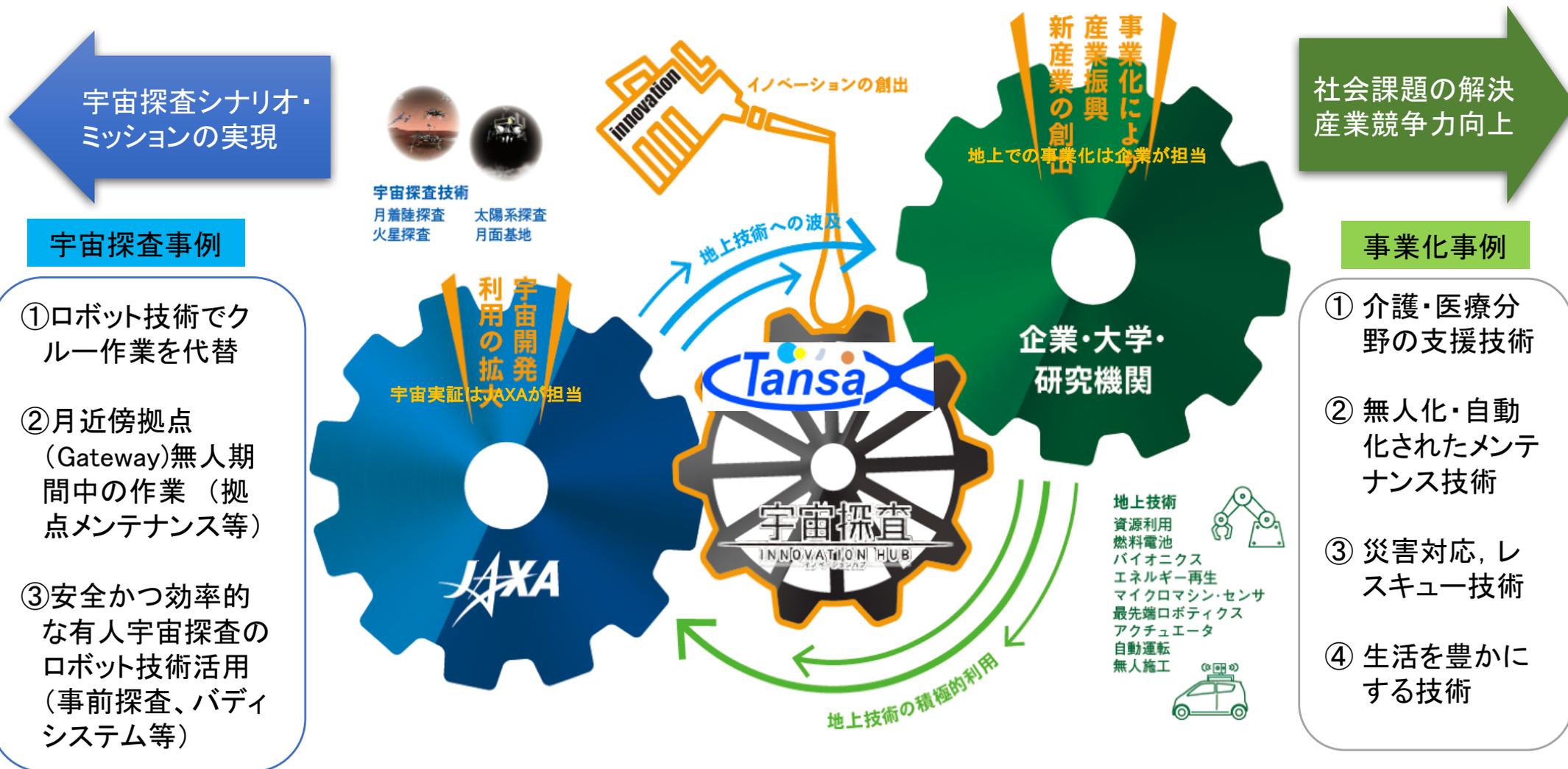


【まとめ】 研究提案募集(RFP)に向けた 技術情報提供要請(RFI)のご案内

宇宙探査イノベーションハブ長 久保田孝



科学技術振興機構 (JST) の支援を受け、2015年度よりスタート
現在、86社、40の大学・研究機関が参加



新たな探査技術の獲得



- 日本が得意とする技術を発展
- 将来の宇宙探査に応用
- 地上の産業競争力も向上

活動する

- ・ 人が効率的に活動する技術
- ・ 人が安全に活動する技術

建てる

- ・ 遠隔操作による無人建設
- ・ 軽くて大きな建設機械

作る

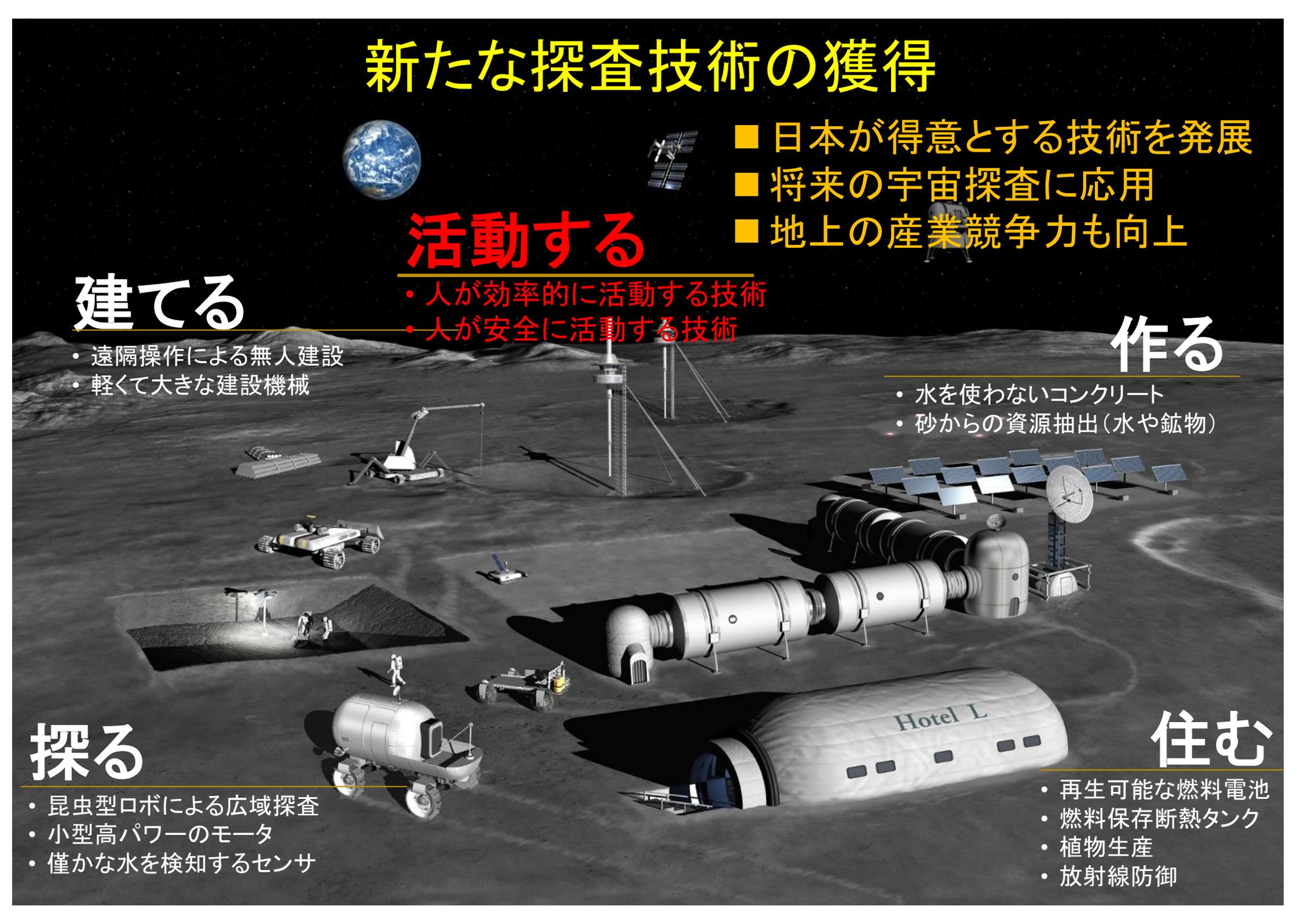
- ・ 水を使わないコンクリート
- ・ 砂からの資源抽出(水や鉱物)

探る

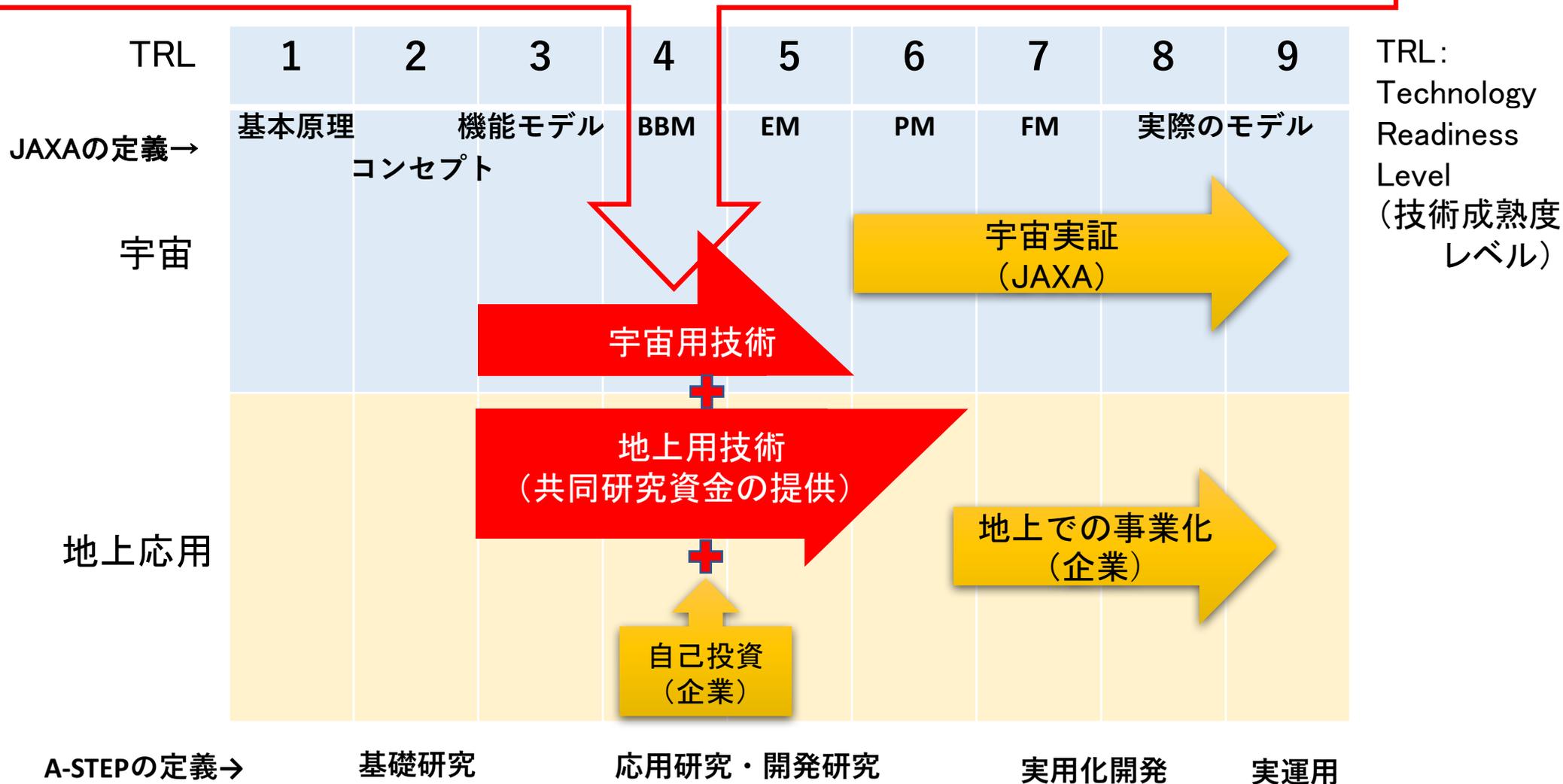
- ・ 昆虫型ロボによる広域探査
- ・ 小型高パワーのモータ
- ・ 僅かな水を検知するセンサ

住む

- ・ 再生可能な燃料電池
- ・ 燃料保存断熱タンク
- ・ 植物生産
- ・ 放射線防御



探査ハブでの研究により、宇宙用技術としてはTRL5(宇宙実証の手前)まで、地上応用としてはTRL6~7(実用化研究の手前)まで技術レベルを引き上げる。
 → 宇宙向けR&Dと企業ニーズのマッチング(自己投資)による研究加速を実現する。



広くご意見をいただく仕組みを構築



- 外部コミュニティ(非宇宙業界)との連携:
 - ・生活支援
 - ・福祉・介護
 - ・自動運転
 - ・物流・輸送分野
 - ・建設・建築分野
 - ・...

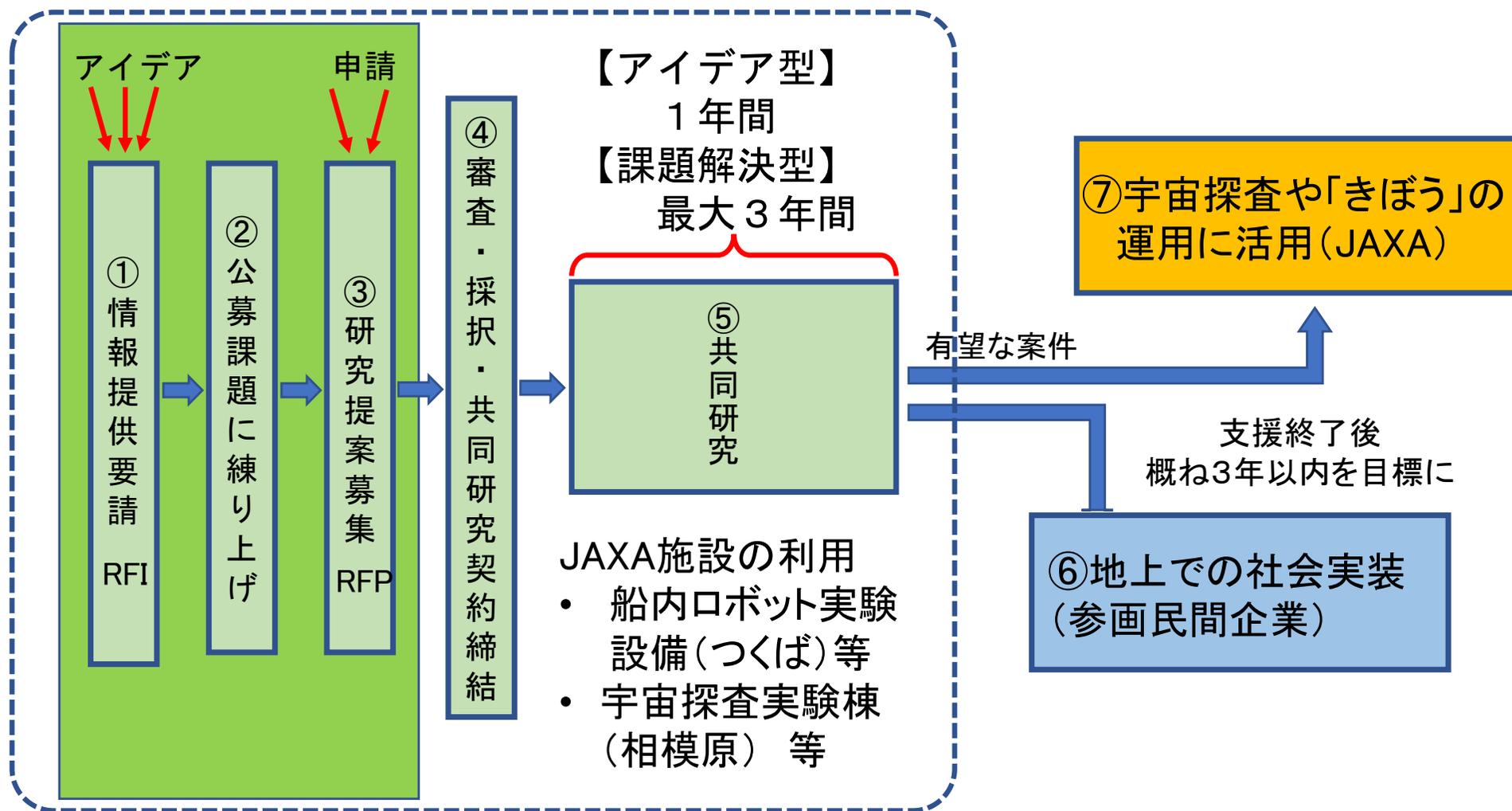


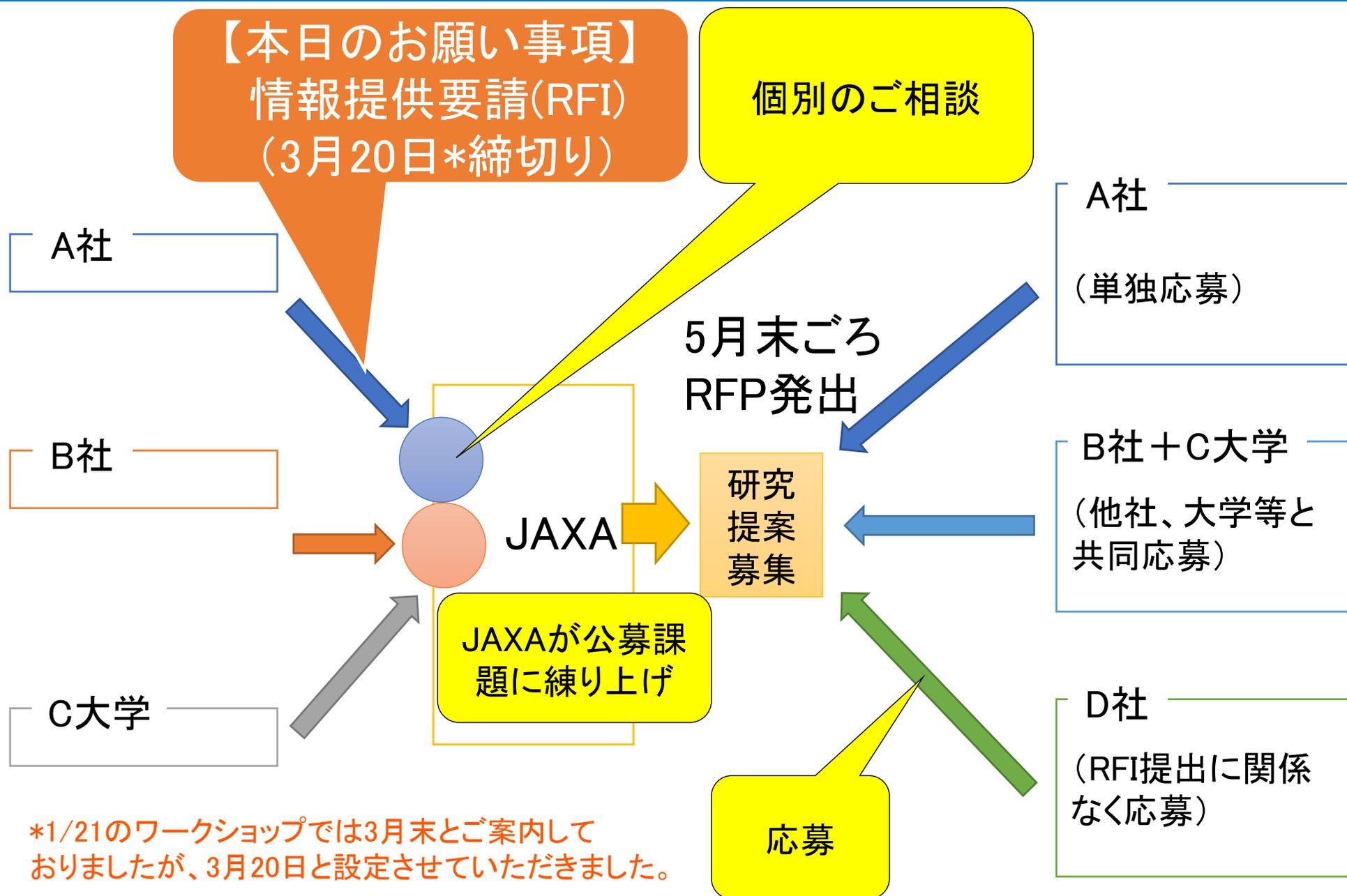
- 研究テーマ:
地上と宇宙の共通課題
- チーム編成:
今まで宇宙開発に関わりのなかった企業の皆様を中心に



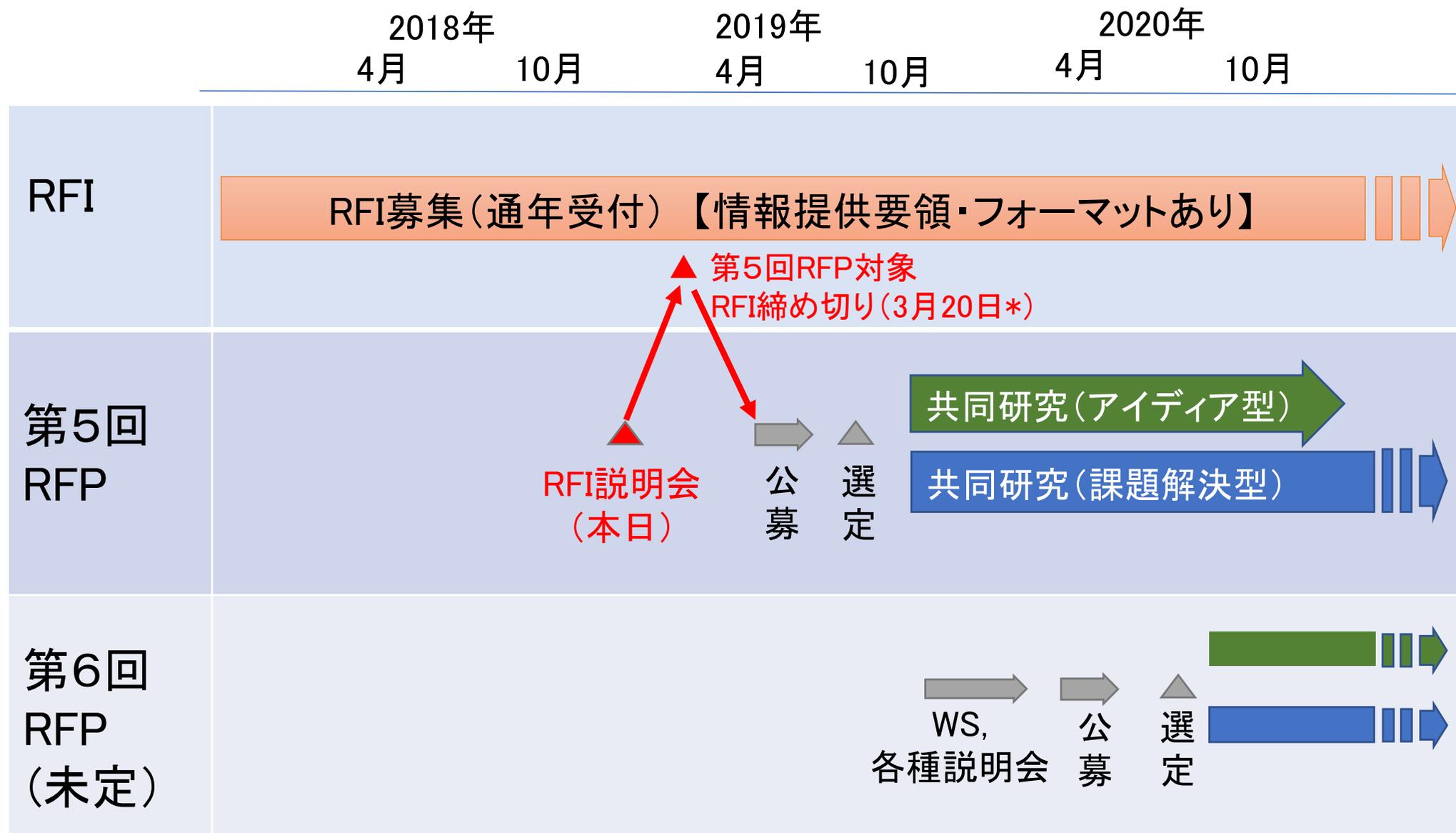
*1/21のワークショップでは3月末とご案内しておりましたが、3月20日と設定させていただきました。

今回のRFI/RFPと共同研究の範囲





*1/21のワークショップでは3月末とご案内しておりましたが、3月20日と設定させていただきました。



*1/21のワークショップでは3月末とご案内しておりましたが、3月20日と設定させていただきました。

■ 募集時期 第5回について、**2019年5月末**を目標に準備中。

■ 目的

宇宙探査イノベーションハブへ参加を希望される皆様からの研究提案の募集。採択後はJAXA宇宙探査イノベーションハブにて研究チームを構成(契約締結含む)。

■ 募集課題

3月20日*迄に提案のあったRFIを踏まえて、募集課題をJAXAで設定。

- 「課題解決型」、「アイデア型」、「チャレンジ型」の3種類
- 「課題解決型」については、RFIで技術の革新性、地上におけるニーズ、事業化等が具体的であった分野を対象。
- 「アイデア型」については、潜在的な技術革新が期待される分野を対象。
- 「チャレンジ型」はRFP募集対象外であっても、探査ハブのポートフォリオに貢献する斬新な提案を対象。

■ 募集内容

- 研究期間 : 課題解決型:3年以内、 アイデア型・チャレンジ型:1年程度
- 採択課題数 : 未定
- 研究資金(TBD)

課題解決型 3億円以下(3年間総額) 但し、採用数により金額は大きく変更する。

アイデア型 500万円以下(1年間)、チャレンジ型 300万円以下(1年間)

***1/21のワークショップでは3月末とご案内しておりましたが、3月20日と設定させていただきました。**

RFP発出後に、募集内容についての説明会を実施します。詳細については改めてお知らせしますのでご参加をお願いいたします。

(参考)

1月31日 宇宙探査オープンイノベーションフォーラム開催(東京)

2月21日 宇宙探査オープンイノベーションフォーラム開催(大阪)

にて、研究成果と探査ハブの活動(知的財産管理制度、クロスアポイントメント制度など含む)を紹介しますので、ご参加お待ちしております。

■RFI(情報提供要請)についての詳細

<http://www.ihub-tansa.jaxa.jp/RFI1603.html>

■お問い合わせ先

<http://www.ihub-tansa.jaxa.jp/>

国立研究開発法人

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

宇宙探査イノベーションハブ

E-mail SE-forum@jaxa.jp

積極的なご参加をお願いします。

A. 課題解決型

① 研究課題の設定趣旨との整合性

- ・ RFPで提示した研究課題の解決に資する研究提案であること

② 事業化実現性 (ビジネスインパクト)

- ・ ターゲットユーザの妥当性、市場動向が十分に分析されていること
- ・ 本事業で獲得された技術の地上における実用化に向けた事業化戦略が具体的であること

③ 目標・計画の妥当性・実現性

- ・ 課題解決に向けた目標・計画が具体的かつ明確であり、実現性が高いこと
- ・ 課題の問題点あるいは技術的な課題等を的確に把握し、その解決策について具体的に提案されていること
- ・ これまでのデータ・成果が蓄積されており、計画が具体的かつ合理的に立案されていること

④ 開発に伴うリスク

- ・ 競合技術、競合他社、他社特許等が的確に分析・整理され、その解決策について提案されていること
- ・ 過去の関連する研究プロジェクトとの関連がある場合は、その結果(うまく行っていない場合の要因分析を含む)が適切に反映されていること

⑤ 研究開発体制の妥当性

- ・ 研究開発体制が適切に組織されており、企業・大学及びJAXAとの役割分担が明確にされていること
- ・ 参画企業が開発に取り組めるだけの経営基盤を有すること
- ・ 参画企業が開発を実施できる技術開発力等の技術基盤を有すること

⑥ 技術的革新性 (イノベーションインパクト)

- ・ 本研究で獲得される技術により、宇宙での課題解決に加え、地上における新しい産業の創出、社会・経済への独創的で大きなインパクトが期待できること
- ・ 技術の独創性(新規性)及び競合優位性(技術的ベンチマーク、経済的優位性)が具体的に検討されていること

A. 課題解決型

① 研究課題の設定趣旨との整合性

- ・ RFPで提示した研究課題の解決に資する研究提案であること

② 事業化実現性 (ビジネスインパクト)

- ・ ターゲットユーザの妥当性、市場動向が十分に分析されていること
- ・ 本事業で獲得された技術の地上における実用化に向けた事業化戦略が具体的であること

③ 目標・計画の妥当性・実現性

- ・ 課題解決に向けた目標・計画が具体的かつ明確であり、実現性が高いこと
- ・ 1年程度で課題解決型研究等にフェーズアップが可能かどうか判断できる計画であること

④ 開発に伴うリスク

- ・ 過去の関連する研究プロジェクトとの関連がある場合は、その結果（うまく行っていない場合の要因分析を含む）が適切に反映されていること

⑤ 研究開発体制の妥当性

- ・ 研究開発体制が適切に組織されていること
- ・ 参画企業が開発を実施できる技術開発力等の技術基盤を有すること

⑥ 技術的革新性 (イノベーションインパクト)

- ・ 本研究で獲得される技術により、宇宙での課題解決に加え、地上における新しい産業の創出、社会・経済への独創的で大きなインパクトが期待できること
- ・ 技術の独創性（新規性）及び競合優位性（技術的ベンチマーク、経済的優位性）が具体的に検討されていること

Q1: 探査ハブでの研究の成果を宇宙用として実証する必要がありますか？

A1: その必要はありません。探査ハブでの成果を宇宙仕様化する際には、JAXAの宇宙プロジェクトとして別予算で実施します。

Q2: 地上における事業化を、探査ハブでの研究終了迄に行う必要がありますか？

A2: 事業化そのものは提案企業側で実施していただきますので、研究のスコープ外となりますが、ステークホルダーに対して事業化の可能性を示すような研究成果を期待します。

今回は、「活動する」というポートフォリオとして、「人が効率的に活動する技術、人が安全に活動する技術」を追加する。

